

Merry Christmas and Happy New Year!!

クリスマス おめでとう。新年おめでとう!!

Maligayang Pasco at Manigong Bagong Taon!!

Feliz Navidad y Ano Nuevo!!

<i>Today in Your Heart</i>	今日 あなたの心に
<i>A Savior Has Been Born</i>	救い主が生まれた
<i>Who is Your Messiah and Lord.</i>	それは あなたの主 あなたの救い主
<i>May you can feel genuinely this grace.</i>	願わくは この恵みを 心から感じるができますように

天に居られる父なる神は、この世に生きる人々のために御子を遣わして下さいました。それは、貧困・困難や不正に苦しむ人々が救いの希望を持つことができるようになるためです。今日も、主なる神は、様々な苦しみの中でもがきながら、救いを渴望している人々の心に生まれてきています。

なぜ、父なる神は、人間を全き完全さの中に造られなかったのでしょうか？

『母親が乳児に固形物を与えることができても、乳児の方は、そのような食物を受け取ることができないように、神も、自分の方からは初めから人間に完全さを与えることができる方であったのだが、人間のほうにそれを受け取ることができなかったからである。』（エレナイオス Eirenaios の『異端反駁』からの要約）

なぜ、御言葉は貧しい馬小屋の中で無防備な赤子として受肉されたのか？

『御言葉は、言語を絶する栄光のうちに私たちのもとに来ることもできたが、私達の方がその時は未だその栄光の偉大さに堪えることができなかったからである。』（エレナイオス Eirenaios の『異端反駁』からの要約）

神は、自らを人間に合わせるほどの寛大な方である。主に栄光!!

主は言われる。「**I will follow you, if it is hard for you to follow me.** 私に付いて来るのがそんなに大変なら、私があなたに付いて行きましょう。」

今年も、沢山の微笑を頂きました。どれほど、励まされ、また、自分は、そのような恵みに値する者ではないのに、と恥じ入ったことでしょうか。

同時に、沢山の悲しみを見て来ました。あまりに悲惨で、写真を撮るのも出来かねないこともありました。9月にフィリピンのナガ市内で出会った、ホームレスの父と7~8歳ぐらいの娘たちの姿は、今でも目に焼きついています。夕暮れになって、父親が、娘たちにビニールシートを渡しました。娘たちはそのビニールシートに身を包んで、父親の方を見上げながらニコニコしながら話しかけました。お寝^{やす}み前のひと時。どんな子供にとっても傍で見守る親との語^{やす}らいは楽しいものです、たとえ、人々が忙しく行き交う路上で、雨露を防ぐ屋根すらない冷たいコンクリートの上であっても。その娘たちの笑顔と父親の厳しい表情。そのコントラストが心に鋭く突き刺さりました。



Zamboanga Airport にて



Tiera Nevada, Camarines Sur にて



Calvary Hill, Tacloban City にて



Pasay City, Metro Manila にて

フィリピンは、太平洋戦争において、アメリカ軍と日本軍が激突した戦場です。今でも、何十万もの日本兵の遺骨が、ジャングルの中や海の底に眠っています。



マッカーサー率いるアメリカ艦隊が押し寄せたレイテ海を望む (Calvary Hill より)



マッカーサー再上陸記念公園で。日本を強制退去になったフィリピン人女性と日本人の父を持つ子供と一緒に



マリア観音 (Tacloban City, レイテ島)

フィリピンは、イギリスやオランダが植民地と
していた国々と異なり、植民地としていた本国
アメリカが、その傀儡政権に対して独立を賦与
することにより独立を達成しました。そのため、
アメリカの敵国であった日本はフィリピンの敵
国とされ、戦後独立を達成したアジアの国々
の中で唯一、日本兵を処刑した国です。山下奉
文将軍が処刑されたと言われるモンテルパの刑
務所には、日本人墓地があり、平和を祈念した
平和観音や祈念塔が建てられています。そこ
には、未だに、処刑された日本兵の古い写真が
晒されています。



モンテルパ刑務所 (モンテルパ市、Metro Manila) にて

でも、日本とフィリピンの間に起きたこうした出来事を、日本人は勿論、若いフィリ
ピン人たちも全く知りません。この夏、アンヘレス市に在住のデイソン氏に会いました。
デイソン氏の祖父は、広大な農地を持っていたのですが、日本軍が基地を作るために没
収したそうです。デイソン氏は、そこで少年時代を過ごし、神風特攻隊の目撃者となり
ました。彼は、今、戦争中には色々なことがあったが、日本人とフィリピン人の間に友
情もあったことも事実であるとし、その事実を後世に伝えることを生きがいとしていま
す。彼は、自分が出会った神風特攻隊のパイロットたちの思い出から、彼らを人間とし
て尊敬していると言い、また、白人に占領され植民地となっていたフィリピンに対して、
その解放のために自らの命を捧げて尽くしてくれたのは、日本人以外にいなかった、と
断言しています。



ディソン氏と共に デyson氏の神風博物館にて (Angeles City)

マテオの福音書においても、ルカの福音書においても、山上の垂訓の第一に、『心の貧しい人々は幸いである。天の国はその人たちのものである。』と記されています。
この年受けた沢山の喜びと悲しみを糧に、痛む足を擦りながら、主イエスと共に歩いて行きたいと思えます。



ホームレスの母子(Naga City にて)



モスレムの少女と(Zamboanga City にて)

2008年 降誕祭に

高島 均